

災害記録を残す

災害の記録は文献資料、写真、映像、石碑、標示板などさまざまな形で残されています。これらは、先人が災害の状況や教訓を私たちに伝えるために残してくれた貴重な財産です。災害を防ぐため、被害を軽減するために活かしたいものです。今回は、香川県高松市の高潮浸水位プレートと高知県大月町の豪雨災害碑について記します。

■高潮浸水位を示すプレート（香川県高松市扇町）

平成 16 年（2004）は日本列島に 10 個の台風が襲来した年でした。このうち、8 月 30 日に襲来した台風 16 号は、台風の接近と大潮の満潮時が重なったため、高松市街地を中心に県沿岸部に高潮被害をもたらしました。高松検潮所の最高潮位は同日 22 時 42 分に既往最高潮位よりも 52cm 上回る TP（注）246cm を観測、最大瞬間風速は高松地方気象台で 31 日 0 時 3 分に 30.7m/秒を記録し、高松市の被害は死者 2 人、床上浸水 3,810 棟、床下浸水 11,751 棟等に及びました。高松市では、高潮の記録を残すために、各地に浸水位を示すプレートを設置しています。同市扇町のプレートは浸水位が地面から 140cm 超に達したことを示しています。〈参考資料：香川県防災局編「平成 16 年災害記録誌」2006 年など〉

（注）TP とは東京湾平均海面で、全国の標高の基準となる海水面の高さを表しています。



■高知県西南部豪雨災害の碑（高知県大月町小才角）

平成 13 年（2001）9 月 6 日未明、活発な秋雨前線の影響を受けて、高知県西南部では断続的な豪雨となりました。大月町では、5 日 23 時から 7 日 10 時までの総雨量が 577 ミリに達し、河川の氾濫により住家や田畑は甚大な損害を被りました。地元では大正 9 年（1920）以来の大水害と言われています。この水害により、小才角地区も大きな被害を受けましたが、犠牲者は出ませんでした。小才角川沿いに地域の住民によって建立された災害碑には、小才角地区全戸数 139 戸、床上浸水 29 戸、床下浸水 31 戸、死傷者 0 人と記されています。文字盤下に刻まれた青い横線は災害時の水位を示しています。〈参考資料：浜口芳昭著「ふるさと小才角」2009 年など〉

